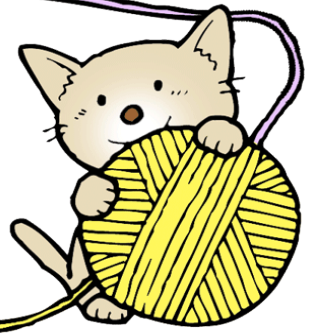


# 研究通信



呉市立広南小学校 令和8年6月2日(火) 文責：大瀬戸

新学期がスタートし、2ヶ月が経とうとしています。そろそろ、目の前の子どもたちの日々の姿を通して「こんな学級にしたい!」「子どもたちに必要な力を付けていくために、どんな取組をしていこうか」、先生方の胸にも色々な思いが膨らんできているところではないでしょうか。昨年度からはサークル対話により、対話の質を高めていきました。本校の目指す『**考え・議論する道徳科の授業づくり**』に向け、目指す児童の姿を具現化していきましょう。

サークル対話とは・・・

対話を通して哲学的に問いを深めていく取り組み **共に考える学びの時間。**

## 対話のルール

- ★人の話は最後まで、じっくり聞く。
- ★分かったふりをせず、分からないことは質問を!
- ★途中でもOK! 言えるところまで。
- ★友達が嫌になる言葉は使わない。

～**安心して話せる場**をつくるのが大切～

## 問いワード

- 【1・2年】  
★なんで? ★なぜ? ★例えば? ★どういうこと?
- 【3・4年】  
★もし～だったら? ★どういう意味? ★自分だったら?
- 【5・6年】  
★つまり～ということ? ★それって本当に・・・?  
★でも、～の場合もあるんじゃないの?

参考・引用文献：木下真弥（2025）道徳的諸価値に多面的・多角的に向き合うことができる道徳科学習指導の工夫-哲学対話を取り入れた授業モデルの構築を通して-

## 「道徳教育プログラム」の作成について

道徳科の学習だけではなく、長期的な学習プログラムを通して子どもたちの意識の変容を見取っていくことが大切です。教科・特別活動・総合的な学習の時間・体験的な活動等学校教育全体の様々な活動を関連付けることにより、子どもたちの道徳性を養っていく必要があります。地域や家庭など様々な人のよりよい生き方と出合わせたり、体験させたりしたことを道徳科とどう関連付けるか、見通しをもって授業に臨んでいきましょう。

【第1回】6月～9月末までのプログラム作成

☆夏休み中に各クラスの実践状況を共有します。

【第2回】10月～3月までのプログラム作成

